

田原市議会

道路整備調査特別委員会報告書

調査研究事項	広域幹線道路、市内幹線道路の整備について
--------	----------------------

平成20年9月19日

道路整備調査特別委員会

委員長 眞木 正五

副委員長 山本 浩史

委員 松見 清

委員 川口 廣和

委員 鈴木 達司

委員 小久保喜光

委員 赤尾 昌昭

委員 太田由紀夫

委員 北野谷一樹

目 次

1	はじめに	……	1
2	活動の経過	……	1
3	現状及び今後の道路整備の状況	……	2
	(1) 東三河及びその周辺地域における高速道路網		
	(2) 国道23号バイパス		
	(3) 市内幹線道路		
	(4) 伊勢湾口道路		
4	今後の道路整備の考え方	……	3
	(1) 住民に対する道路整備の必要性の啓蒙		
	(2) 今後の広域幹線道路整備		
	(3) 幹線道路等の整備に向けての広域連携		
	(4) 市内幹線道路の整備		
5	おわりに	……	5
参考資料			
	道路整備調査特別委員会活動経過	……	7
	広域連携による地域づくりと将来構想シンポジウム	……	10

1 はじめに

道路整備調査特別委員会は、平成19年9月14日の第3回定例会本会議において委員9人で設置されたところである。田原市議会においては、4年前の平成15年12月にも今回と同様の事項を調査研究対象とする道路整備調査特別委員会が設置され、その研究成果が報告されている。その後、田原市と渥美町との合併を経て、新田原市が発足し、渥美半島はひとつとなった。こうした状況を踏まえ、新田原市全域に係る視点から今回、本委員会に付託された広域幹線道路、市内幹線道路の整備等について、その調査研究の結果を報告する。

道路は、人が生活していく上において、最も重要な社会基盤のひとつであり、人やものを運ぶ働き、まちをつくる働き、道路空間を利用した防災空間等の働きを持っている。また、道路は地域の産業や暮らしを支える重要な役割を果たしており、こうした点から道路整備は自治体の重要な課題となっている。

本市においても、国道、県道、幹線市道等の整備を進め、都市機能の効率的な道路ネットワークの形成に努めているところである。

さて、広域幹線道路の整備に関しては、田原市は、気候・風土に恵まれ全国一の農業を誇るとともに、臨海部は、トヨタ自動車をはじめとする企業に支えられ、また隣接する明海地区と合わせて全国有数の製造品出荷額を上げるなど躍進する愛知県の製造業の一翼を担う地域となっている。しかしながら、産業を支える道路のインフラは未だに十分な整備がなされているとはいえ、現実には朝夕の慢性的な渋滞が発生している。これらは、地域産業の一層の発展や臨海工業用地への企業誘致に大きな影響を及ぼし深刻な状況となっているほか、地域全体の市民生活にも影響が出ているところである。

また、市内幹線道路の視点からは、合併後の市民生活の利便性を高めるためにも、交通安全対策も含め、市内の各拠点を結ぶ市内幹線道路網の整備が求められている。

2 活動の経過

本委員会は、今後の道路整備の方策を探り、また委員会での提言や論議の実効性を高めるため、本市を取り巻く道路事情については、本市の道路担当部局から市道の整備状況及び豊橋市と本市が関係する路線の整備状況、愛知県東三河建設事務所からは愛知県の所管する国・県道の道路整備の予定、また国土交通省中部地方整備局東海幹線道路調査事務所からは、国交省所管の道路の整備予定について、調査研究を行った。

また、東三河地域・西遠地域・伊勢志摩地域を含めた大きな広域連携による組織づくりと住民の道路づくりへの参加の啓蒙の取り組みについて、「広域連携による地域づくりと将来構想シンポジウム」の開催、三重県の鳥羽市、伊勢市、三重県庁への視察調査を行った。

(資料：道路整備調査特別委員会活動経過)

3 現状及び今後の道路整備の状況

道路整備事業においては、用地取得をはじめ多額の事業費が必要であるが、昨今、国・県においては、道路整備事業も選択と集中・重点整備となっており、地域の単独ではその推進もままならないといった状況となっている。また、平成21年度から道路特定財源が一般財源化することもあり、その財源確保をより一層図っていく必要がある。

(1) 東三河及びその周辺地域における高速道路網

現在、東三河及びその周辺地域における高速道路網の整備計画としては、新東名高速道路では、引佐ジャンクションから静岡県側が特に工事が進んでおり、引佐ジャンクションから御殿場ジャンクションまでは平成24年度開通を目標に、引佐ジャンクションから豊田東ジャンクションまでは平成26年度開通を目標に整備が行われている。また、新東名高速道路と東名高速道路の連絡道路である新東名引佐連絡路の整備も平成24年度の開通を目標に進められている。今後、田原市にとっては、このように整備が進む高速道路へのアクセスをどのように整備していくかは大きな課題となっている。

その対応策で、高速道路ネットワークへ接続する浜松三ヶ日豊橋道路（東名・三ヶ日ジャンクションから国道23号豊橋東バイパスまでの区間）の整備については、東三河南部地域（豊橋市、田原市）と浜名湖西地域（湖西市、新居町、浜松市）の県境を越えた連携強化が重要である。こうした流れの中、平成20年度には初の調査費が付き、整備へ向けた調査が始まったところである。

(2) 国道23号バイパス

国道23号バイパスのうち、東三河地域は、豊橋バイパスと豊橋東バイパスの2バイパスで構成されており、平成20年代前半の暫定二車線開通を目標として事業推進が図られているところである。特に豊橋東バイパスについては、高速道路とのネットワーク化により三河港及び東三河臨海工業地帯の発展に大きく寄与するものである。

また、国道151号及び247号の東名豊川インターチェンジから国道23号豊橋バイパスに至る区間については、立体化を要望しているところである。

他に、国道23号豊橋バイパスの大山ジャンクションから明海地区を通り三河港大橋の手前の約5.5km区間の立体化について、関係の豊橋市とも連携を図りつつ要望活動をしているところである。

(3) 市内幹線道路

市内に目を向けると、平成21年度には東京製鐵が田原4区に進出、操業開始をすることから、県道豊橋渥美線の道路改良事業が進められている。また、合併後において、本市の地域拠点間を20分間で結ぶことを目標とする道路整備構想が出されており、国道259号江比間地区の整備を要望しているところである。この江比間地区に

については、交通安全対策による道路整備が進められているが、国道259号バイパスとしての整備が要望されている。

都市計画道路としては、駅前通り線のセントファールから一本橋まで、田原中央線の大坪交差点から国道259号バイパスまで、神戸蔵王線の南町漆田線から大草豊島線までなどがある。県道城下豊島線（旧県道城下田原線）の国道259号から中央公園まで整備が進められているが、吉胡地内の田原赤羽根線までの整備促進も、市内の東西・南北間の経済・地域間の交流にとって必要であり、事業着手、又は要望をしているところである。

(4) 伊勢湾口道路

この地域にとっての最大のプロジェクトである伊勢湾口道路については、残念ながら、国土形成計画で、海上部分に当たる伊勢湾架橋は、長期的視点から取り組むとされ、海峡プロジェクトとしての調査が終了するなど、国でのプロジェクトの実施は難しい状況である。しかし、陸上部分については、道路ネットワークとしての整備の観点から真に必要な道路として位置付け、浜松三ヶ日豊橋道路から田原市までの区間の整備を強く要望していく必要がある。

4 今後の道路整備の考え方

(1) 住民に対する道路整備の必要性の啓蒙

今回の道路整備調査特別委員会では、市民がより良い地域環境の中で暮らしていくために何が必要かを明確にし、その実現を図るための方策を探る調査研究を進めてきた。そうした中で、各地域における幹線道路の整備促進や地域づくりにおける広域連携による取り組みの重要性を改めて再認識した。併せて、住民が道路問題を地域の面からのみ眺める場合もあり、圏域を超えた広域連携や地域の幹線道路整備の位置付けに対し、各地域の考えはどのようなものか、また道路整備の必要性を認識していく必要も強く感じた。今後は、このような視点に立って、行政と住民がひとつとなって道路整備の機運を盛り上げ、広域幹線道路の整備を進めるべきである。

今回、こうした観点から、特別委員会の活動の中で、「広域連携による地域づくりと将来構想シンポジウム」として、東三河地域を取り巻く幹線道路整備状況の説明、基調講演、各地域の市議会議員・経済界の方によるパネルディスカッションを行った。これは、参加者に各地域の考え方に触れるとともに、広域連携による道路整備を含めた地域づくりと将来構想について考え、議論していただく機会を提供することを目的として実施したものである。

前段で述べたようなシンポジウムや研究会・勉強会等を通じて、住民に道路整備に関する様々な情報を提供するとともに、住民の中での議論等を通じて、本市域内の住民と隣接する自治体の関係地域の住民が、一体となって機運を盛り上げていくような

環境を作ることが重要である。

(2) 今後の広域幹線道路整備

本市の今後の発展のためには、なんとといっても、臨海部や三河港の整備・充実とその物流の根幹を支える高速道路へアクセスする広域幹線道路網の整備が急務である。しかし、その整備について、本市の思いだけではその実現は難しいものがある。本市の望んでいる道路整備が、必ずしも他市にとってのメリットや必要性にはなっていないのが現実である。今後、お互いの利益をどう調整して乗り越えていくのかが、最大の課題である。

また、三河港は、港を構成する4市だけでなく、広域都市圏の産業経済の基盤として機能しており、そのビジョンを共有しつつ一体となって道路整備に取り組むことが必要である。

伊勢湾口道路については、前述のように海上部分の架橋については、難しい状況ではあるが、この道路は田原市や近隣地域にとって、様々な意味で大変重要であり、真に必要な道路であると言える。今後は、豊橋市・田原市の東三河南部地域と湖西市等の浜名湖西地域及び鳥羽市等の伊勢志摩地域との広域連携を進め、産業、観光面からより深い交流により道路の必要性を高め、その整備に取り組むべきである。既に交流や連携により伊勢湾口には、見えない橋が架かっている。これを見える橋とするため、じっくりと取り組む必要がある。

以上を踏まえ、本市にとって必要な道路整備を考えた場合、当面の重点整備としては、浜松三ヶ日豊橋道路の整備と三河港までの延長を推進すべきである。

なお、今後の道路整備に向けては、①地域ビジョンの明確化とその実現を支援する道路網のあり方、②地域住民・地元企業等の合意形成づくり、③道路網整備のための関係地域の連携と組織づくりといった視点に立って進めていく必要がある。

(3) 幹線道路等の整備に向けての広域連携

広域幹線道路等の整備には、今後とも関係市町村と連携を図りながら、地域・行政・産業界・商工団体・農業団体等で組織する東三河地域の道路整備推進組織も必要と思われる。東三河全体の組織ができれば、ビジョンの明確化と共有化が取りやすくなり、地域ごとの要望もその中に取り込んで、共通認識ができる。

東三河が一つという観点に立った大同団結する戦略と個々の地域の戦略を組み合わせる手法、行動が必要であるが、国・県との呼吸が合わないこともあると思われ、国、県との定常的な協力体制を構築すべきである。

その組織づくりの一方で、各地域との交流についても、十分されているとは言えず、議会としても近隣4市の議会等と定期的に交流活動・勉強会等を行う必要性を感じている。市町村ごとの要望活動等も、本市が積極的な取り組み姿勢を示すのはもちろんであるが、さらに地域エゴに陥らない広域的な視点に立った活動も求められている。

今日の道路問題は、広域的な地域の総意の盛り上がりが必要であり、従来の行政・

議会だけでは解決できないため、広域連携を常に念頭に取り組む必要がある。

(4) 市内道路等の整備

市内の都市計画道路の整備促進についてであるが、計画路線等の現状をみると、議会としてその整備状況をチェックする仕組みが体系化されておらず、随時検証する必要があると思われる。

道路の整備要望に当たっては、市全体での位置付けを図るとともに、地区・校区単位での受け皿づくり、受け入れ体制づくりが求められている。

市内の交通安全対策や交差点の改良等による整備は、道路の新設や拡幅に比べ、少額の費用で短期間に大きな効果を効率的に発揮することから、引き続き積極的に取り組んでいくべきである。

5 おわりに

道路は、地域と地域、人と人を結び、産業や生活文化を育て、新たな可能性を導き出すまちづくりの根幹となるものである。

本市も市制施行後、5年が経過し、渥美半島地域の新たなまちづくりのための様々な事業が、順調に実施されている。道路においても田原バイパスの全線開通など、今までの努力が実を結び、目に見える形となった所もあるが、さらに計画路線の整備促進を図り、より住み良いまちづくりの実現をめざしていかなければならない。

本委員会の調査活動を踏まえ、本市の道路整備が一層の推進をされることを願い、また委員会終了後も議会として、引き続き調査・研究する必要があることを申し上げ報告とする。

参 考 资 料

道路整備調査特別委員会活動経過

回数	日時	協議事項等
第1回	平成19年9月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長の互選 ・閉会中の継続調査の決定について
第2回	平成19年10月4日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な進め方について ・平成16年度田原市議会道路整備調査特別委員会報告について ・田原市道路整備計画の現況について
第3回	平成19年10月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・田原市内の主要道路の現況について(国・県道16路線)
第4回	平成19年10月29日(月)	<p>【道路整備にかかる勉強会】</p> <p>講師 東三河地域研究センター 常務理事 金子鴻一氏</p> <p>演題 「将来の田原市を支える道路の課題」</p>
第5回	平成19年11月16日(金)	<p>【視察】三遠南信自動車道</p> <p>(三ヶ日ジャンクション、引佐ジャンクション及びインターチェンジ、三遠トンネル)</p>
第6回	平成19年12月27日(木)	<p>【視察】国道23号名豊道路：豊橋・豊橋東バイパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23号名豊道路の全体計画とその進捗状況 ・豊橋・豊橋東バイパスの現地視察 <p>東三河IC・豊川橋南IC(豊橋BP)、東細谷IC(豊橋東BP)、豊橋・豊橋東バイパスの開通部分(車中から)</p>
第7回	平成20年1月28日(月) ～29日(火)	<p>【視察(一泊二日)】</p> <p>(伊勢市)・合併後の道路整備への取り組みについて</p> <p>(鳥羽市)・伊勢湾口道路への取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾口道路推進に向けての意見交換について <p>(三重県庁)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾口道路と東海南海連絡道への取り組みについて
第8回	平成20年2月21日(木)	<p>【道路整備にかかる講演会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演 「議員が取り組むべき東三河の道路課題について」 ・講演 「渥美半島の幹線道路の整備について」
第9回	平成20年4月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮)道路整備シンポジウムについて <p>(委員会終了後)</p> <p>東三河地域問題セミナー第2回講座に参加(豊橋市民センター)</p> <p>講師 国土交通省国土計画総務課 企画官 木村 実 氏</p> <p>講演 「国土計画制度改革の経緯と国土形成計画の推進について」</p>

第10回	平成20年4月23日(木)	・広域連携による道路整備講演会・シンポジウムについて (開催までのスケジュールとその内容)
第11回	平成20年5月1日(木)	・広域連携による道路整備講演会・シンポジウムについて ①シンポジウムのお知らせ(チラシ)について ②現在までの準備状況と今後のスケジュールについて ③各団体等への参加の働きかけ及びその方法について ④その他(アンケートの素案作成)
第12回	平成20年5月12日(月)	・広域連携による道路整備講演会・シンポジウムの開催について ①シンポジウムの全体の流れについて ②役割分担について ③各団体等への参加の働きかけの状況について
第13回	平成20年5月19日(月)	・広域連携による道路整備講演会・シンポジウムの開催について ①シンポジウムの全体の流れについて ②シンポジウムのアンケートについて ③役割分担について ④各団体等への参加の状況について
第14回	平成20年5月22日(木)	【道路整備シンポジウム】田原文化会館 文化ホール ・広域連携による地域づくりと将来構想シンポジウム (詳細は後述)
第15回	平成20年6月27日(金)	・シンポジウムの反省について ・今後の進め方について
第16回	平成20年8月1日(金)	【訪問調査】 ○東海幹線道路調査事務所 ・事務所管内の幹線道路の整備状況について (名豊道路、三遠南信自動車道、伊勢湾口道路等) ・幹線道路整備の今後の展望について ○愛知県東三河建設事務所 ・事務所管内の幹線道路の整備状況について ・幹線道路整備の今後の展望について
第17回	平成20年8月21日(木)	・最終報告書のまとめについて

道路整備調査特別委員会行政視察記録

視察実施年月日	平成20年1月28日		～	平成20年1月29日	
視察者人数	11名	道路整備調査特別委員+議長	10名	事務局	1名
視察先	三重県伊勢市、鳥羽市、三重県庁				
視察先①	訪問先	県名	三重県	市町村名	伊勢市
	訪問日	平成20年1月28日 (月)			
	訪問時間	13:30 ～ 15:30			
	議会事務局連絡先	調査課	電話番号	0596-21-5630 (FAX) 0596-21-5631	
	視察テーマ	① 合併後の道路整備への取り組みについて			
	備考	合併後の道路整備をメインで調査。伊勢湾口道路は取り組みを再確認するとともに、今後の議員間の交流の足がかりとしたい。			
視察先②	訪問先	県名	三重県	市町村名	鳥羽市
	訪問日	平成20年1月29日 (火)			
	訪問時間	9:30 ～ 11:00			
	議会事務局連絡先	庶務係	電話番号	0599-25-1206 (FAX) 0599-25-1215	
	視察テーマ	① 伊勢湾口道路への取り組みについて ② 伊勢湾口道路推進に向けての意見交換について			
	備考	伊勢湾口道路は取り組みを再確認するとともに、議員間の意見交換を行い、今後の交流を深めたい。			
視察先③	訪問先	県名	三重県	市町村名	(三重県庁)
	訪問日	平成20年1月29日 (火)			
	訪問時間	13:30 ～ 15:30			
	視察先連絡先	三重県政策部 交通政策室	電話番号	059-224-2805	
	視察テーマ	① 伊勢湾口道路と東海南海連絡道への取り組みについて			
	備考	伊勢湾口道路と東海南海連絡道の期成同盟会事務局であり、太平洋新国土軸の全体像の把握を進めたい。今後の伊勢湾口道路推進に向けての議員の役割を探る。			

広域連携による地域づくりと将来構想シンポジウム（結果）

道路整備調査特別委員会【道路整備シンポジウム】（第14回）

1 日 時 平成20年5月22日（木）

2 場 所 田原文化会館 文化ホール

3 内 容

○ 広域連携による地域づくりと将来構想シンポジウム

① 13:00 開会あいさつ

② 13:05～13:20（現況説明）

東三河地域を取り巻く幹線道路の整備状況について

③ 13:20～14:20

講演 「中部圏における広域連携の重要性と道路整備」

講師 奥野信宏氏（中京大学総合政策学部長）

④ 14:20～14:25（休憩）

⑤ 14:25～15:45

パネルディスカッション

「広域連携による地域づくりと道路整備について」

コーディネーター： 戸田敏行 氏（東三河地域研究センター常務理事）

コメンテーター： 奥野信宏 氏（中京大学総合政策学部長）

パネリスト： 鈴木道夫 氏（豊橋市議会）

豊田一仁 氏（湖西市議会）

寺本春夫 氏（鳥羽市議会）

佐野眞琴 氏（田原市臨海企業懇話会副会長）

遠藤由明 氏（伊良湖ビューホテル総支配人）

参加者 約500名（文化ホール及びロビー等の中継による参加者を含む）

* 参加者全員にアンケートを依頼し、意識調査を実施。アンケート項目及び集計結果等は次ページ以降に

【広域連携による地域づくりと将来構想シンポジウムのPRチラシ】

広域連携による道路整備講演会・シンポジウムのお知らせ

広域連携による 地域づくりと将来構想

田原市議会では、平成19年9月に市民がより良い地域環境の中で暮らしていくために何が必要かを明確にし、その実現のための方策を探るため、道路整備調査特別委員会を設置し調査研究を進めてまいりました。そうした中で、各地域における幹線道路の整備促進や地域づくりにおいては、広域連携による取り組みの重要性を改めて再認識したところで

す。
今回、広域連携による地域づくりや幹線道路整備への取り組みを考えていく田原市議会の研究会として、講演会とシンポジウムを企画いたしました。基調講演は、国土形成計画等の策定にも大きく携わってまいります中京大学総合政策学部長の奥野信宏教授を講師としてお招きし、シンポジウムについては、パネラーとして各地域から市議会議員の方、財界の方等に、また、コーディネーターとして、東三河地域研究センターの戸田敏行常務理事にお願いし、道路整備を含めた広域連携による地域づくりについて、ご意見を伺います。

県域を超えた広域連携や地域の幹線道路整備の位置づけは東三河・西遠地域・伊勢地域にとってどういうことなのか、また、どうあるべきかを考えるとともに、今後、どのように取り組むべきかについて、その方向性を探って生きたいと考えています。

各市の市議会議員、企業や田原市の住民の皆様にもぜひご参加いただき、各地区における広域連携等における様々な考えに触れるとともに、考えていただければと思っています。みなさまのご参加をお願いいたします。

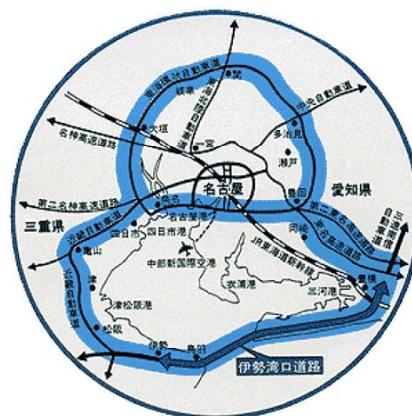
田原市議会

【日時】5月22日(木)13:00~15:45 (開場12:30)

【開場】田原市文化会館文化ホール

【内容】

- ① 13:00 開会あいさつ
- ② 13:05~13:20 (現況説明)
東三河地域を取り巻く幹線道路の整備状況について
- ③ 13:20~14:20
講演 「中部圏における広域連携の重要性と道路整備」
講師 奥野信宏氏(中京大学総合政策学部長)
- ④ 14:20~14:25 (休憩)
- ⑤ 14:25~15:45
パネルディスカッション
「広域連携と道路整備について」
コーディネーター 戸田敏行氏
(東三河地域研究センター常務理事)
パネリスト 5、6名程度



《 主催：田原市議会 主管：道路整備調査特別委員会 》

将来構想シンポジウムのアンケート結果（単純集計のみ〔回答数 257〕）

問1. 東三河地域、湖西市、鳥羽市の工業・農業・観光などの地域ポテンシャル(潜在力)の高さについてどう感じましたか。該当されるものに1つ〇をつけてください。

回 答 区 分	回答数	構成比(%)
非常に高い	76	30.0
高い	119	47.0
普通である	46	18.2
高いとは思わない	12	4.7
合計	253	100.0

問2. この地域のポテンシャルを生かした地域づくりには特に何が不足していると思いますか。当てはまるものに1つ〇をつけてください。

回 答 区 分	回答数	構成比(%)
幹線道路整備	171	67.6
地域ポテンシャルのピーアール	35	13.8
地域間の強い結びつき	39	15.4
特に不足はない	5	2.0
その他	3	1.2
合計	253	100.0

問3. 問2で1と回答した方にお伺いします。幹線道路整備を促進するにはどのような取り組みが重要と思いますか。当てはまるものに1つ〇をつけてください。

回 答 区 分	回答数	構成比(%)
広域的な地域連携	95	53.1
地域住民の理解・合意を得るための普及啓蒙活動	45	25.1
国・県への陳情	34	19.0
わからない	3	1.7
その他	2	1.1
合計	179	100.0

問4. 今回のシンポジウムの感想をお聞かせください。当てはまるものを全てに○をつけてください。

回 答 区 分	回答数	回答率(%)
広域連携の必要性がわかった	148	60.4
道路整備の重要性がわかった	148	60.4
地域の問題がわかった	44	18.0
今後もこのような機会を持つべきである	65	26.5
その他	8	3.3

有効回答数

245

問5. あなた自身についてお伺いします。各項目につき1つ○をつけてください。

年齢

回 答 区 分	回答数	構成比(%)
10代	0	0.0
20代	16	6.2
30代	17	6.6
40代	50	19.5
50代	103	40.1
60代	56	21.8
70代以上	15	5.8
合計	257	100.0

居住地域

回 答 区 分	回答数	構成比(%)
田原市	166	65.1
豊橋市	42	16.5
湖西市	7	2.7
鳥羽市	4	1.6
豊川市	17	6.7
蒲郡市	1	0.4
新城市	3	1.2
小坂井町	4	1.6
その他	11	4.3
合計	255	100.0

現在の仕事

回 答 区 分	回答数	構成比(%)
農林漁業	37	14.6
自営業(商・工・サービス業など)	22	8.7
会社員・団体職員	103	40.6
議会議員	27	10.6
公務員	21	8.3
その他の仕事	15	5.9
仕事はしていない	29	11.4
合計	254	100.0

問6自由記載欄 記載事項

2	伊勢湾口道路の早期実現。
3	幹線道路の早期整備着工。
8	行政間の競争ではなく、協創(特色を活かした連帯)。
10	東名高速道路、中部空港への高規格アクセス道の早期整備。
13	人口が減る、高齢者が多くなる⇒自動車利用が少なくなる⇒利用者いない⇒ムダ(橋はいらない！！)
16	幹線道路整備が急務に感じました。名古屋～田原、東名高速～田原のアクセスの不便さは節に感じています。
21	セントレアの拡張を考えると、最後に奥野先生も言われた湾口道路の方を優先させる方が問題解決につながる。知多～渥美 物流も太くなる。
22	世界中で天災が次々と起こっている現実を考えると、今やるべきことは道路問題ではなく、天災の被害を最小限におさえる為にはどうすれば良いか、又、世界的に食糧問題、特に自給率は38%といわれている日本、この先、隣国からの食糧が入ってこなくなったときどうするんですか？今、国をあげて考えることは、自然に恵まれた中部は、経済よりも農業を重視すべきだ。自然をこわして、道路にするのは簡単ですが、逆はとても長い年月と人の手がかかります。
25	地域コミュニティとの連携。
28	市民の代表である市議会が東三河はもちろんの事、鳥羽市や湖西市との話し合い、道路整備等を進めていってほしい。このままでいくと半島が「島」になるかも。
32	行政、議会の動きがにぶい。
34	幹線道路の重要性は理解できるが、その後の具体的な町づくりの計画性、ビジョンまであれば良かった。田原市議の皆さんに期待します。
35	蒲郡地区の23号線が平成30年完成では時間がかかりすぎである。平成25年完成を目標に計画をしてももらえないか？豊川橋(旧200円有料橋)への物流車の集中を渡津橋等へ分散していただきたい。(有料に戻しても良いとも考えてしまう。)時間制限、業者別、車両No.別等大手企業に自主規制を。
43	豊かな自然を後世に残すべきものだ。
46	①農業の活性化。②地域文化の保存、推進
49	安全第一地域
52	伊勢湾口道路に期待します。早く。
56	平成8年から「伊勢湾口道路スポーツ交流」として、伊勢市と少年野球を通じた交流を毎年行っています。その時(当時)から11年間、卒団していく子ども達に「君たちが大人になる頃には伊勢湾架橋ができるといいね。そしたら日帰りで気軽に交流もできる。」と言ってきました。子ども達も望んでいる夢の大橋「伊勢湾口大橋」将来の田原市を担う子ども達のためにも、夢で終わることなく、今すぐ実現に向けて実行に移ってください。
63	道路はつくらなくても良い！！
69	正直お金のかかる道路より、生活を何とかしてほしい。
77	通退勤時の渋滞の解消。
80	広域連合を考えながら、地域力を高める。
82	絵に描いたモチ。夢物語で終わらないよう。小さな勢力争いしてる時代じゃない。
83	早く自動車専用道を田原市まではつくるべきである。湾口道路の橋までは、もっと遅くてもいいのでは？
88	①道路整備に力を入れて。東三河地域は遅れとる。②住宅地を増やし、人口を増やして。

93	単線でもよい電車を。バスはなし。地域はぐるりんバス。パネルディスカッションは(農)の方が一人ほしかったです。世界一、日本一高いバス料金。旧渥美は捨てられてる気がします。
95	県、国との連携、陳情、市議会の役割使命の向上が求められる。
99	①地の利を活かした町づくり。②観光資源をフルに活用する…場当り的な活動になっている。③東三河、伊勢湾を道路でつなぎあるべき姿に向かう。④豊橋市南部に東名をもってこなかった事が地域発展の遅れを生み出している。
100	豊橋市議は今回の会に合わないように思う。また、豊橋の思いが理解でき、先が遠いと感じた。
104	現状から発展するには、本当に道路整備が必要であることを実感致しました。
116	風土を重視した地域づくり
117	潜在的な力を100%近く発揮できるように。
118	幹線道路整備。人、物を動かすため必要。広域連携が最も重要であり、豊橋市がもっとリーダーシップを取ってほしい。期待する。少し弱い感じがする。各市議会の活躍を期待します。
124	広域連合の取り組みにより、湾口道整備の実現により地域発展がより加速することを期待する。
129	価格の不安定な農業について今後は希望の持てる夢のある産業に導いてほしい。
132	幹線道路
133	議会活動の活性化。リーダーの育成。
134	広域連携と市民意識の向上。
135	知多半島⇄名古屋、渥美半島(田原市)⇄豊橋市(湖西市)この差。◎豊橋したい。
139	①東三河、湖西の合併による広域連携が必要。②中核市の豊橋は、もっとイニシアブをとるべき。
140	穂の国市をつくる。
145	①伊勢湾橋の早期実現。(私の生きている間に!)②豊川橋、23号線道路の整備。
147	住んでいる所から30分以内に高速又は高規格道路がほしい。
153	今の状況は陸の孤島に近いので、道路整備をなんとかしてほしい。
156	東三河市を目指す。(各市町の住民の意義と理解が大事。)
158	強い連携を基にして、伊勢湾口道路早期実現!!
165	議員間、産業間、農業間、行政間の連携の充実を希望します。
166	①道路整備の促進。②東三河の広域連携を強く推進願いたい。
167	議員間の連携はもちろん、広域的な考えからいろんなサイドで交流の場をつくって行こうではありませんか。本日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
169	今後高齢化の進む中で、活力の維持と増強を図る必要性を痛感している。解決策としては、奥野先生の言われた相互利益の模索について強い関心を持ちました。
174	お互い握手するところ、相手の手首までは関心があるのだが、そこから先の相手の中身、身体には手首ほど関心を寄せていないのではないかと。議会でもこんな企画が可能なんだと驚きました。目からうろこです。ありがとうございました。
182	「道路整備が大切」。渥美半島は遅れていた。知多半島高速が建設されたところにもっと積極的に取り組みが必要だった。今、急に必要性を言っているのでは取り組み遅い。熱意が不足していたと思う。特に豊橋の取り組みの努力不足。田原市も市長、市議はもっと努力を。
184	広域連携については、地域住民の意識改革を行政、議会が積極的に取り組み、地域住民の行動が必要ではないでしょうか。

189	必要なものを早期につくること。
190	今回、国、愛知県の方はいたのでしょうか。
191	半島という閉鎖された地域の街づくりは、外部からいろんな人を招き入れること。(イベント開催も外に向かってPR外部との交流が大切)今までのトップ、議員が観光という外からの流入をあまり考えていなかったと思う。観光が活発になれば自然と道路への要望も生まれる。
192	①国道23号バイパスの早期開通。②田原市から東名高速道路までの時短化
195	渋滞しない産業道路の整備。渋滞しないことでのCO2削減など、道路整備の重要性の要であると思われます。
197	伊良湖・鳥羽の橋を早急をお願いいたします。
202	地域の産業(工業・農業・商業)発展には次代に合った道路ルートが必要。線のルートで対応できない。(発展ができない)これからは面のルートの必要性が理解できた。
204	住みやすい地域づくり。
207	豊橋市に住んでいるため、豊橋市の問題に考えがたよりますが、東名高速から豊橋をぬけるルートは限られており、市内だけでも交通問題となっていると思います。伊良湖までの袋小路の状態を袋小路でなくし、スムーズな道路が必要と思います。
212	大清水(23号)から田原を早く完成させる。(259号)
222	豊橋はきれいなことを言わないで、東三河の中心であるので、ドロをかぶって本格的に道路問題に取り組むべきだ。
224	三河港口道路を考えるべきだ。
225	メイン道路にアクセスできる視線道路網の整備。
226	奥野先生の話の中で、高齢者をつかった地域づくりの確立と活性化が重要と考える。田原市も真剣に取り組む課題の一つと考え実施、行動に移していただきたいと思います。
232	市民に問題意識を持ってもらうような啓発活動も必要と思います。
234	①伊勢湾口道路の話がでて40年以上経過している。いつまで将来構想なのか。②伊良湖ビューホテルの遠藤氏と同感です。私自身3年前区のある会議で同様な発言をした。「道のない所には文化はひらけない」
238	道路の必要性。早期実現。
240	県庁まで県内で一番時間の掛かる田原。三河湾道路、伊勢湾口道路の整備を期待する。
242	住民に詳しく説明して理解と協力をお願いする運動を起こしてください。
245	①広域連携に向けた、議員も中心となったリーダーシップ。②この地域における道路整備の重要性をわかりやすくアピールして早期に実現を図ること。
251	広域道路は必要だけれど、莫大な費用も掛かるので、切磋琢磨したうえで不必要なものは絶対につくらないようにしてほしいと思います。
253	道路の整備。バイパス等の充実化。
256	地域との理解をもって、人に優しい道路を。
257	道路整備と地域ポテンシャルのPRが今後の最重点課題だと思います。

道路整備調査特別委員会の活動記録写真



平成 20 年 5 月 22 日 (木) 道路整備シンポジウム
* 田原文化会館文化ホール
「広域連携による地域づくりと将来構想シン
ポジウム」におけるパネルディスカッション



平成 20 年 1 月 29 日 (火) 視察
* 三重県鳥羽市議会
鳥羽市議会正副議長等と伊勢湾架橋に向
けての意見交換

平成 19 年 12 月 27 日 (木) 視察
* 国道 23 号バイパス建設工事現場
豊橋バイパス、豊橋東バイパスの全
体計画やインターチェンジ等を視察

